

乳牛にもりもり食べてもらう。

1 乾物摂取量は十分か

牛群の高い健康水準を維持しつつ、高生産を得るためには、牛たちにもりもり食べてもらう（乾物摂取量を高める）ことが何よりも大切です。

乾物摂取量の充足をモニタリングする方法の一つに、ルーメンフィルスコアがあります。ルーメンの充満度を評価するもので、摂取された飼料の量が反映されます。ルーメンフィルスコアは、牛の左後方に立ち、左腰部のくぼみ具合、腰椎横突起下部と腰角から伸びる皮膚の向かっている方向、最後肋骨後部のルーメン窩の深さで評価します（図1）。ルーメンの充満度（乾物摂取量）が不足している場合は、それそのものがエネルギー不足の原因となるため、食べられない原因を究明し、対処する必要があります。

2 ストレース＝乾物摂取量の減少

乾物摂取量を向上させる上で、乳牛がどうい動物なのかをあらためて認識する必要があります（表1）。問題を抱えている農場では普段何気なく行っている群移動、繋留、給餌方法などが、乳牛にとって大きなストレスになっているのかも知れません。

ストレースにより体脂肪が動員され、血液中の遊離脂肪酸が増加します。遊離脂肪酸が肝臓で代謝される際に満腹中枢が刺激され、乾物摂取量が減少してしまいます。

3 カウ・コンフォートと乾物摂取量

カウ・コンフォート（乳牛の快適性）という概念が生産現場で広く浸透し、応用されています。カウ・コンフォートとは、採食、歩行、飲水、寝起き、反芻、排泄といった行動を物理的・心理的な苦痛を与えることなくスムーズに行えるようにすることです。「喰いやすくて食欲をそそる飼槽」、「滑りづらく移動がしやすい通路」、「飲みやすい水槽の構造と位置」、「寝起きしやすい牛床と繋留方法」、「新鮮な空気と適当な温・湿度および風速を保証できる牛舎」など、管理方法も含めたさまざまな取組があります。適正な飼養密度を保つこともその一つです。これらの取組はすべて乾物摂取量を向上させることにつながります。

4 分娩前後の管理

分娩を控えた乾乳牛や初妊牛は、周産期疾病の発生や分娩後の生産性に大きく影響するため、乾物摂取量の確保に向けた配慮がとくに必要です。分娩後の胎盤排出の早さを周産

期のバロメーターとしている農場があります。胎盤停滞の多くは分娩前の乾物摂取量（エネルギー）不足が起因して発生します（写真1）。当農場では、①すべての牛群で飼養密度を85%以下とする（乾乳前期はパドックを併設）（写真2）、②牛の移動は必ず2頭以上で行う、③乾乳時の趾蹄の観察と治療、④エサ変化への徹底した馴致など、乾物摂取量を向上させるためのガチな取組を行っています。胎盤停滞の発生は、子宮への細菌汚染、発熱からの食欲減退のみならず、繁殖性の低下につながってしまっています。当農場の初回授精受胎率は50%超、妊娠率は34%（目標20%以上）と高い水準を維持しています。

表1 乳牛はどういう動物なのか

- ・ 草食動物
- ・ 集団行動を好む
 - ・ 独りになると極度に不安になる
- ・ 体格や気性により牛同士の社会的順位がある
 - ・ とくに弱い牛への配慮が必要
- ・ いつもと違うことに不安を感じる
 - ・ 変化を嫌う
- ・ これまで経験したことのないものに強い警戒心を持つ
 - ・ 連動スタンション・ミルクカー・ウォーターカップ・カウトレーナー・牛床での寝起き・電牧線
 - ・ 育成期に慣れさせておくことが大切
- ・ 寒さに強く暑さに弱い

乳牛の不安・警戒心を解くことが乾物摂取量の向上につながります



写真2 適正な飼養密度と乳牛の快適性を徹底した搾乳牛舎内



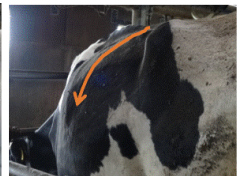
写真1 胎盤停滞は乾乳期間における乾物摂取量（エネルギー）不足のサインです



スコア1 急性の疾病、不十分な飼料摂取または嗜好性の悪いエサの給与が疑われる*



スコア3 搾乳牛の一般的なスコア（適度な採食量・繊維がルーメンに存在する）*



スコア4 泌乳後期および乾乳牛に見られるスコア*

* 乳牛群の健康管理のための環境モニタリング（酪農学園大学エクステンションセンター）より

図1 ルーメンフィルスコア